

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名：藤田医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。(令和7年5月1日現在)

1. 病院の機能及び医師等の配置

項目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕薬剤師 2名 看護師 23名 管理栄養士1名	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	16	6	4
小児科	5	2	1
皮膚科	3	2	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	1	1	1

2. アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

	実績(令和6年度)			今後の予定(令和7年度)		
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容
情報提供 講演会等	内科、外科、皮膚科、泌尿器科など	医師、看護師、薬剤師	2024年4月2日、第1回免疫チェックポイント阻害剤 IrAE セミナーをハイブリッドで行った。行った。参加者 98名。	内科、外科、皮膚科、泌尿器科など	医師、看護師、薬剤師	2025年8月4日、第3回免疫チェックポイント阻害剤 IrAE セミナーを行う予定である。
	内科、眼科など	医師、看護師、薬剤師	2024年7月10日 第2回豊明クロスセミナーにて内科、眼科合同カンファレンスをハイブリッドで行った。69名参加。			
	内科、耳鼻科、小児科など	医師、看護師、薬剤師	2024年9月25日第73回 東海喘息研究会 にてアレルギーに関する勉強会をハイブリッドで行った。26名参加。			
	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「ぜん息児のためのおやこ教室」現地 90名	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「おやこぜん息」教室 現地 90名
	耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会(1回/年、30名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供	耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会(1回/年、30名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供
	皮膚科	医師	令和6年度第1回学校保健講演会(名古屋市医師会)でアトピー性皮膚炎についての講演を行った。			
	皮膚科	小中学校教員	令和6年度第1回学校保健講演会(名古屋市医師会)でアトピー性皮膚炎についての講演を行った。			
	皮膚科	薬剤師	第638回岡崎薬剤師会研修会でアトピー性皮膚炎についての講演を行った。			
他	内科	一般住民	ホームページ上で、気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供を行っている(倫理委員会承認のもの)			今後も継続予定である

人材育成 研修会等	内科	学生	アレルギーに興味のある学生を対象に月に1回程度で勉強会を行っている			今後も継続予定である
	内科	医師(院内、院外)	数カ月に一度、間質性肺炎の病理検討会を行っている			今後も継続予定である
	小児科	教職員	エピペン講習会(16回 470名)	小児科	学校教員	エピペン講習会(15回 400名)
	他					
助言 指導	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員継続
	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員継続
	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言

3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実 績(令和6年度)	今 後 の 予 定(令和7年度)
診療	<ul style="list-style-type: none"> ・気管支喘息の重責発作の症例においてもERを経由し集中治療室にて入院加療を行い、重篤な場合でも迅速に対応している。 ・アナフィラキシーについては救急救命センターを中心に迅速な対応を行っている。 ・重症喘息患者症で生物学的注射製剤を使用する場合はカンファレンスを行い適切な治療法を検討している ・間質性肺炎（びまん性肺疾患）では可能な限り、病態についてカンファレンスを行い、今後の方針、治療法などに関し検討している ・気管支喘息は耳鼻科的合併症や皮膚科的合併症が多いため、各診療科と相談しながら診療している ・EGPA(好酸球性多発血管炎性肉芽腫症)は消化器内科、膠原病内科、循環器内科、皮膚科などの合併症が多いため、各診療科と相談しながら診療している 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も救急部と連携し診療にあたっていく。 ・今後も救急部と連携し診療にあたっていく。 ・今後も継続予定である ・今後も複数科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療を行っていく。 ・今後も複数科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療を行っていく。 ・今後も複数科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療を行っていく。
	患者の状態に応じた食物アレルギーの食事指導、治療を行えるように様々な治療の選択肢を作り、患者や家族のQOLを向上しつつ、治癒に導くべき診療を行ってきた	日常診療での疑問や問題点を解決すべくCQを立て、臨床研究も進められるように日々の診療のレベルアップをはかる。
	アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剥離の診療を行い、必要に応じてカンファレンスで検討を行った。	アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剥離の診療を継続する。
	アレルギー外来にてアレルゲン免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール（毎週土曜日）	アレルギー外来にてアレルゲン免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール（毎週土曜日）
	アトピー性皮膚炎の中等症以上の患者に、JAK阻害薬・生物学的製剤の導入など積極的に行ってきた。	引き続き、アトピー性皮膚炎の中等症以上の患者に、JAK阻害薬・生物学的製剤の導入など積極的に行っていく。

研究	<ul style="list-style-type: none"> ・NSAIDs過敏喘息（アスピリン喘息）の臨床背景の検討 ・間質性肺炎（びまん性肺疾患）の臨床背景、画像、病理学的検討 ・ANCA関連血管炎に関する肺線維症に関する研究を行っている。 ・当院では気管支サーモプラスティーを施行しており、「Safety and efficacy of bronchial thermoplasty in refractory asthma with severe obstructive respiratory dysfunction」というタイトルで Therapeutic Advances in Respiratory Disease に投稿した。(IF: 5.1) ・基礎研究として、「健常／喘息患者細胞を用いた三次元細胞モデルによる気道リモデリングの検証と薬効評価」を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・論文化を目指している ・継続していく ・論文化を目指している
	クルミアレルギーの診断における EXiLE 法に有用性について論文掲載を行った。	今後も様々な食物アレルギー診断における EXiLE 法の有用性についてデータを出していくことと、抑制試験についても検討を行い論文化を目指す。
	スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－	スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－
	PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター）	PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター）

4. アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

- ・当院ではすべての科で軽症から重症な集中治療質管理が必要な症例を 24 時間体制で受け入れており、今後も継続することで県民の生活の質の向上を図っていく
- ・当院では内科系、外科系、放射線科、病理診断科、基礎医学系との定期的なカンファレンスを行っており、診療科を横断してアレルギー・免疫に関しての知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく
- ・地域の病院や他の拠点病院と連携しつつ、県内全域の医師や医療従事者に対しての人材育成を引き続き行っていく
- ・当院では基礎医学系との共同研究も充実しており引き続き継続し、当科が主体として行っている「3次元構造の気管支上皮を作成しアレルギー・免疫の病態」を探索していく
- ・当院では気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの典型的なアレルギー疾患から、難治性免疫系疾患である間質性肺炎も得意としており診療科を横断して最新の知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく。